



35 野村文挙《鷹図》

明治三十年（一八九七）頃
絹本着色
本紙五・四 × 一三五・〇

余計なものを一切描かず、羽を休める一羽のハヤブサのみに焦点が当てられている。画中に股野塚が記した賛文によると、このハヤブサは明治二十八年九月二十七日、広島より基隆（キールン・台湾北部）に向けて航行中の運送船海城丸において捕獲された一羽を描いたものである。このハヤブサは、広幡侍従武官を通じて明治天皇に献上され、その後は高千穂をはじめとした各軍艦で捕獲されたタカやハヤブサと同様に新宿御苑動物園で飼育された。ハヤブサは明治三十年九月に病気のため死んでしまったが、その姿を絵に写し留めておくようにとの御下命があり本図が製作されたという。製作を依頼された野村文挙（一八五四〜一九一一）は、塩川文麟、森寛斎に師事した円山四条派系の画家であり、宮内省から度々作画御用を受けていた。本図のハヤブサの姿には奇をてらわず、写生に基づいた描写を行う、作者の真摯な製作態度がうかがえる。



「高千穂」



「鷹」(海城丸のハヤブサ)



「グアルダフィ」

〔参考〕

《征清之役写真帖 第十一》より
新宿御料地の動物園で飼育されていたタカ。明治28～29年の撮影。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonaru Shozokan